

5/26 (日) 19:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2019J2 ■順位表■ 第14節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	山形	28p	+9	18	9	HO
2	水戸	27p	+9	14	5	H●
3	大宮	26p	+6	17	11	
4	甲府	23p	+9	20	11	A●
5	京都	23p	+4	16	12	H△
6	柏	23p	+4	11	7	
7	金沢	22p	+9	21	12	H●
8	長崎	21p	+2	16	14	H●
9	琉球	20p	+3	19	16	HO
10	東京V	20p	+2	19	17	
11	岡山	19p	0	16	16	HO
12	横浜FC	18p	-1	15	16	A●
13	新潟	17p	+2	19	17	
14	徳島	17p	-1	16	17	A●
15	千葉	17p	-4	16	20	A●
16	町田	16p	-8	11	19	
17	愛媛	15p	-5	13	18	A●
18	鹿児島	14p	-5	12	17	H△
19	栃木	14p	-6	11	17	A△
20	山口	12p	-7	20	27	
21	福岡	12p	-9	11	20	
22	岐阜	12p	-13	11	24	--- ---

次回HomeGame

第17節 vs.アルビレックス新潟
6/8(土) 15:00@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : 町田ゼルビア

2018 J2 21勝13分8敗 勝ち点76: 4位

直近の対決と結果

2018/08/26

J2 - 30節@町田

町田 1-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

	FC岐阜	町田ゼルビア
2019/05/19 J2 - 14節@フクアリ 千葉 5-1 岐阜		2019/05/19 J2 - 14節@町田 町田 2-2 京都
2019/05/12 J2 - 13節@長良川 岐阜 2-3 金沢		2019/05/12 J2 - 13節@ニッパツ 横浜FC 1-1 町田
2019/05/05 J2 - 12節@長良川 岐阜 2-1 琉球		2019/05/05 J2 - 12節@長良川 町田 0-2 水戸

●前節・ホーム琉球戦で8試合ぶりの勝利を手にしたFC岐阜。続く5/12(日)第13節・金沢戦は、ホーム連戦・連勝を目指した試合だったが、試合序盤から金沢のスピードに対応できず後手に回り、オウンゴールで先制を許してしまう。前半は何とか1失点で守りきった岐阜だが、後半に追加点を与えてしまい、さらに厳しい状況に。しかし、失点した直後に投入された#11前田遼一の2得点で追いつき、勢いをつける岐阜。だが、追いついた直後に金沢に勝ち越し点を許してしまい、2-3での敗戦。劣勢の中で追いついただけに、非常に残念な試合結果となってしまった。そして5/19(日)第14節・アウェイ千葉戦でも、試合序盤から相手のペースにはまり、また守備の連携ミスから失点を重ね、前半だけで0-4に。後半には岐阜も戦術を修正して盛り返したものの、点を奪うまでには至らず、逆に5失点目を許してしまう。後半アディショナルタイムに#10ライアンがようやく1点を返したものの、時すでに遅し。1-5という大敗を喫してしまった。この連敗の結果、FC岐阜は19位から最下位に転落。20位・山口までは勝ち点12と同じなのだが、大量失点による得失点差で離されてしまっている。ただし、まだまだ混戦中のJ2リーグ、勝ち点差はそれほど離れていない。勝ち点差3には17位・愛媛が、勝ち点差6に12位・横浜FCがいる状況であり、まだまだ予断を許さない。そして、今シーズンも全体の3分の1・14試合を消化した。「まだ14試合」「もう14試合」、考え方は様々だろうが、今シーズン残り3分の2を、チーム一丸となって危機感を持って修正に取り組めば、きっとこの状況を打破してくれるはずだ。

さて、今節の対戦相手はFC町田ゼルビアだ。相馬直樹監督6年目体制となる昨季はクラブ史上最高の4位を達成。今季はJ1クラブライセンス獲得の道筋も見えてきているが、成績面ではエース#30中島裕希の負傷などもあってか、まさかの低迷。現在は6戦未勝利で順位も16位と苦しんでいる。とはいえ、相馬監督が培ってきたハードワークするサッカーは健在だし、現在の岐阜よりも上位、簡単な相手ではない。逆に町田も、岐阜に勝利してチームを上昇気流に乗せようと、必死に戦ってくるだろう。

そして、町田との通算対戦成績は、岐阜の2勝1分5敗4得点8失点と大きく負け越し。ホーム戦でも1勝3敗・2得点5失点と分が悪い。2016年に町田がJ2再昇格してからは、引き分けの後で5連敗中と、圧倒的に分が悪い。しかし、いつまでも同じカテゴリーの相手に負け続けている訳にはいかない。

町田が低迷している理由のひとつが、岐阜と同じくリーグワーストである得点力不足だろう。したがって、3得点以上を挙げている選手もいないのだが、ここ4試合で2得点と独り気を吐いている#24ロメロ・フランクを最も注意すべき選手に挙げておきたい。町田は、セットプレーやロングボールからの得点を得意とするので、岐阜の守備陣には千葉戦での反省を活かして無失点で抑えてもらいたい。

また、町田にはかつて岐阜に在籍していた、#5深津康太(07~08年)と#6李漢宰(11~13年)がいる。今節の出場は難しいと思われるが、岐阜戦以外での活躍を期待している。

今週末は、既に5月とは思えない猛暑が全国にやってくる予報になっている。今節はナイターだが、それでも選手たちの消耗は一層厳しく、難しい試合になるだろう。しかし、それでも最後まで全選手が集中を切らさずに、勝利を目指してひたむきに走りきることが、FC岐阜の勝利への最低条件だ。そして、そんな試合だからこそ、ホームスタジアム・長良川のアドバンテージを、僕らFC岐阜サポーターの拍手と声援を、選手たちの力に替えよう。選手たちを奮い立たせ、その背中を押そう。そして試合終了の笛の後には、勝利の歓喜を、このホームスタジアムに響き渡らせよう。

(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第13節】岐阜 2-3 金沢

●琉球に逆転勝利して、8試合ぶりの勝ち点3。これでひと息つけたから、次は連勝して少しは安心できる順位に持っていきたいところ……だったのだけれど。

もちろん、今季の金沢は調子が良いことは知ってたし、スピードのある縦への突破を仕掛けてくることも知識としてあった。そして、長身FWの#22 クルーニーがベンチにも入っていないくて、これは「今日はスピード勝負しますよ」っていう金沢の宣戦布告(?) というのも分かってた…ハズ。

試合開始直後は良かったと思う。選手たちは前を向いてプレーしてたし、ボールを運びながら攻め込んでいた。だけど、それが続いたのは5分ぐらい? 金沢の選手が慣れてきたのか、金沢の守備が機能して岐阜が優位にボールを保持できないようになると、金沢の特長である、縦への突破が威力を発揮するようになり、そのスピードに岐阜の守備陣の対応が後手に回る。そうした状況で、サイドを突破され、中に入れられたボールの処理で不幸にもオウンゴール。うーん……#22 柳澤も#15 会津も、どちらかと言えば攻撃的なSBしかも大卒ルーキーだから、トップスピードに乗った金沢の選手たちを止めるのは正直難しい。だとすると、スピードに乗る前に中盤で潰さないといけないのだけれど、それが出来ていない。ただ、僕の理解が正しければ、大木サッカーというのは、選手間の距離を狭くすることで、ボールを奪われた場合にでも素早く攻守を切り替えてボールの再奪取をしやすくする、という狙いもあるハズなんです。そのサッカーをして、中盤での相手選手への寄せが甘くて、味方選手が集まっているエリアを突破されたら、そらアカンですわ…(溜息)。逆に、「中盤での寄せ、攻守の切り替え」という意味では、金沢の選手の方が遥かに上回っていた。素早くボールホルダーに寄せて奪ったら、一気に選手たちがスペースに走り出し、あるいはボールを運び、敵陣を突破する。そして、それを着実に繰り返す。一方の岐阜は、なかなかボールを奪えないし、ボールを奪った後も、なかなか素早い攻守の切り替えができない。ボールを奪うために相手選手の近くにいないのだから、すぐに動いて相手選手と距離をとらないと、そこへパスを出す環境にはならないし、パス出せば近くの相手に奪われるよなあ…(溜息)。という訳で、前半は一方的に攻められていたような感覚。1点目がポストに跳ね返っての失点だったから「あー、今日はポスト運が無い日かなあ」って思ったけれど、2回ぐらい止めてくれたし、スタジアムが一瞬沈黙した#6 三島のプレー(苦笑)もあったから、差し引きだとプラスだったのかな(苦笑)。後半には修正できるかと思ったけれど、やっぱり金沢の突破を止められず、2失点目。この打開策は…うん、やっぱり「打開策は、#11 前田遼一(リッ)」。投入された直後のCK、そのフンプレーで前節に引き続き、相手DFを押しつけながらヘディングゴール決めるなんて、半端ないって! その後、若干勢いを盛り返す岐阜だったけれど、金沢の優勢は変わらない。徐々に時間が過ぎて行く中、やっぱり「打開策は、#11 前田遼一(リッ)」。またもCKの流れから、三度目のヘディングゴールで同点弾! 一気に盛り上がるスタジアム。ほら、綺麗に繋いで崩して点を獲るサッカーなんて要らなかったんや!(暴言)しかし、ここで「若いチーム」が裏目に出た。しっかり守備を固めつつ逆転を狙うのではなく、前がかりに。流れの中で同点に追いついたのなら、それもアリだと思うけど…勢いを増した攻撃に対応しきれず。勝ち越し弾を決められてしまう(後でオウンゴールに訂正されたけれどね)。ちょっと(かなり?) 高い授業料を払うことになってしまった。アディショナルタイムには#9 山岸祐也の「幻の同点ゴール」もあったけれど、このまま試合終了。うーん、もったいない!

#11 前田で点が獲れるのは、まあ当然ながら分かってた(苦笑)。ただし、#11 前田が出てくる前に点を失い過ぎてるし、流れの中で、#11 前田に合わせるプレーができていない。こ

のあたりの改善と、中盤での運動量の増加が急務の課題だと感じた。(ささたく)

●ファースト・タッチがゴール! 2本のシュートで2得点!! 前田神の空恐ろしさを存分に発揮して、「もう、コレは逆転勝ちしかないよね!」と信じてやまなかったのだが……。

決勝点は遠目ながら「なんか、信じられないような弾道のシュート……」と思ったんだが、オウン・ゴールという裁定。そりゃ、そうだよな。そうでなければ、あんな角度で飛んだりしない。けっきょく、先制点と併せて2点がオウン・ゴール。この試合もバレーやポストくんが活躍してくれたのに、勝機を自ら手放してしまったようなものか。でも、決勝点は相手のFWの得点でもいいような気もする。まあ、どっちでもいい。試合全体としても金沢のモノだった。ボールは持てたように見えたが、それすらも金沢の想定通りだったのかな? 流れの中で何度も、両サイドとも裏を取られまくっていたように見えて「ヨイヨイ……」と思ったりもしたけど、後から見直してみると向こうの両FWがすごかった。金沢が今の位置にいるのが理解できたような気がした。

雰囲気的には盛り上がりたけど、内容的には完敗に近いような気がする。そんな流れの中で前半の失点を最小限に抑えた、抑えられたのが後半の前田神の2ゴールや盛り上がりにつなげたとも言える。なんとか、前半を無失点で後半を迎えられないものか。試合全部が平調子、同じリズムで戦わなくともいいように思うのだが……。

それにしても、驚嘆すべきは前田神のアタマ! あたかも『打ち出の小槌』のように「振れば得点が山となる。」みたいな感じすらある。まあ、『打ち出の小槌』とか表現する時点で歳がバレるワケだが、実際に昭和半ばの生まれなんだからしかたがない(笑)。

こんなヤバくてゴキゲンな武器があるのだから、十二分に戦えると思うんだけどな。まずは、この試合で途中から出てきたメンツがスタメンになること。話はそこから。それも楽しみの一つにして、フクアリでも精一杯応援してきます。(ぐん、)

●ちょっとクラクラしてしまう前半だった。この日の金沢のDFは琉球より緩かったと思うのだけれど、琉球戦と同じかそれ以上に、何も出来ない。いや、何かは出来ている。でも、それが有効な打撃とはなっていない。ボクシングで喩えるなら、「手数が多いけれどジャッジのポイントにならないジャブ」のような。

0-2となったところで、スラッガー前田投入。またボクシングに喩えると、琉球戦はまず山岸投入で顔面に的確にジャブが入るようになって、相手の体力を削いだところで前田がフィニッシュブロー、でダウン。そんな展開だった。今回は、ジャブを入れる前に、いきなりダウンを奪いに行った。でも、すごいね、まさに『スタア』だ。いきなりダウンを奪ってしまう。彼のヘッド2発で同点。いずれも、シュートはサイドネットあるいはその近くに着弾している。これが技術というもの、なのだろう。

もし、勸善懲悪の定番時代劇なら、前田のゴールかアシストで3-2で岐阜が勝ったことだろう。でも、そんなチープなシナリオが番組製作会議を通るはずもなく。同点ゴールのすぐ後にしっかり縦に崩されて失点してしまい、これが決勝点。たしかにスタンドは沸いた。『後半は』見せ場も多かった(前半はポストやクロスバーが見せ場を作ってくれた)。でも、こんなことを書くとも身も蓋もないけれど、なんか「それだけ」という感じもした。

時折、岐阜のサッカーは「勝つことが第一目標じゃないのでは」と思うことがある。「自分たちのサッカーをやろう、それが出来れば勝利はついてくる」と。アプローチとしては間違っていない。問題なのは「自分たちのサッカー」が出来なかったときに、「それでも勝利を引き寄せる」術を用意していない、用意する予定がないっぽいことだ。

いや、別に問題ではないな、「それでも勝利を引き寄せる」とは二次的なものなのだから。勝てなかったのは、「自分たち

のサッカー」が出来なかったから。ならば、出来るようになるばいなのだ。

繰り返すが、アプローチは間違っていない。さて、2年半近く経ったけれど、その「自分たちのサッカー」は、いつ結果を出せるのだろうか。おそらく監督は納期の確約はしていないのだろうし、フロントもそれでOKしているのだろうから、努力して気長に耐えることにします。(吉田铸造)

【第14節】千葉5-1 岐阜

●ホームでの敗戦の悔しさは、優しい千葉さんが癒してくれるハズ…と向かったアウェイ・フクアリ。だけど、“優しかった”ファン・エスナイデル前監督は解任され、今は江尻篤彦監督。そしてウチのスタメンに、前節2ゴールの11前田遼一が起用されたのも、ガンバから育成型期限付き移籍で加入した#37市丸瑞希が入っているのも想定内。だけど、千葉戦で圧倒的な活躍をしている#14風間宏矢がベンチ!?今節も“後半勝負”ってこと?

しかし…試合開始10分足らずでセットプレーで2失点するというのは、どうなんですか…(溜息)。しかも、明らかにGKとの連携不足が原因の自滅的な失点。ちゃんとセットプレーの守備練習できてる? #43GKヤンとコミュニケーション取れてる?と疑問がついてしまう。猛省して、二度とこのような失点をしないようにしていただきたい。

そして試合序盤から前節と同様、今節も相手に「素早い攻守の切り替え」をやらされてサイドを侵略される岐阜。しかも、前節よりも千葉の両サイドの突破は厳しく、前節以上に対応に苦しむ岐阜の守備陣。中盤でも寄せられず、裏を抜かれて3失点目。4失点目は、セットプレーなのにボールの出どころが無くて、#2阿部正紀が苦し紛れに出した不用意なパスを奪われての失点。この間わずか40分足らず。うーん、この“何もできない悪夢感”は久しぶりかもしれない(注:このような悪夢感は、僕は初めてではありません(苦笑))。

で、ここで選手たちがキックオフの前に長い打ち合わせ。すると、フォーメーションが変わり、#17藤谷匠が投入され(こんな状況だったけれど)初出場おめでとう!)…「あれ?やるサッカー変えた?」と思ったのは、昨季のアウェイ・10/7(日)山口戦以来だと思う。後半になると、それが一層明らかに。3-5-2かな?ともかく3バックにして千葉とのミラーゲームにして、修正を図る。縦へのパス、ロングボールを多用するように戦術を変える。これで決定機が生まれたけれど、残念ながらゴールは奪えず、そして急造(?)の戦術なのでボールの精度も悪く、効果的な攻撃は数少ない。だけど、間違いなく前半よりは動きが良くなった岐阜。だとすると、「どうして前半からやらないの?」という疑問が浮かんでくる。ちゃんと相手チームを分析・研究して、しっかり対策を立ててるのだろうか?確かに、相手チームに合わせるリアクションサッカーよりは、“自分たちのサッカーを貫く”と称してポゼッションサッカーをする方が、見る方もやってる選手たちも楽しいんだろうと思う。だけど、サッカーは対戦相手があるスポーツである以上、相手に合わせて変えなくても勝てるチームというのは、世界レベルでもそうそう無い訳で。そしてほぼ毎試合、前半にやられて失点しているウチのようなチームが、相手チーム対策を充分にして試合に臨むのは、必要なことだと僕は思うんですが…(溜息)。結局、徐々に千葉に対応させるようになり、5失点目を奪われてしまう。岐阜にやっと点が入ったのは、後半アディショナルタイムの#10ライザの1点のみ。まあ、その1点だけでも、現地にいた身としては随分と救われたような気もしますが(苦笑)。

良いところがほとんど無かった、完敗と言っても良い敗戦。様々な点の問題点が浮き彫りになって一方で、怪我人も多く、その修正は困難だろう。だけど、一歩ずつでも改善していくしかない。その覚悟をもって、チーム一丸となって取り組んでくれると信じている。(ささたく)

●いや〜、まったく、なんと言ったらいいのか。そりゃね、J参入前から応援してて、参入してからもずっと見てますからね。岐阜の試合。それも、ほとんど現地で。だからね、1-5なんてね、たいしたことないですよ。だいたい、0-5とか何回も見たし、さらに言えば0-6も2-6も、あるいは1-7とかも数度、ね。あげくに2-8まである。4-6も含めて、両クラブ合わせて10点とか、まるで野球みたいなスコアを残すクラブですから。ウチは、1-5なんかね、たいしたことないですよ、ウン。耐性はできてますとも、ええ。まあ、9点取られるのはカンベンしてね?と声を大にして申し上げたいワケです。これ以上、記録を更新しないでね、と。(実際、見たことあるですよ。公式戦で9点取った、取られた試合を。ウチじゃないけど。悲惨でしたね……。)

ただですね。「耐性がある(ｷｯ)」と言ってはみるものの、「無傷でいられる」ワケではないですよ、さすがに。挨拶を終えた選手達が引き上げた後は、しばらく動けませんでした。泣きたいのをこらえてるような仲間が、自分そっちのけでパワーを注入してくれたおかげで立ち上がった次第。ありがとう。

それでも、不思議なことに試合中は「まだイケる。全然イケる!」って思っていました。0-4になっても、です。相手が千葉だから、かな?(笑)相変わらず、個の能力が高くて攻撃の勢いはあったけど、それでもスキは見せていたように感じられて、「後半、先に点取ったらわからん。逆転あるよ!」まで思っていました。だからこそ、いろいろ残念な場面多すぎて悔しい。悠史のシュートも、前田神のシュートも。何より、ユーヤのシュート……。アレは決めてほしかった。決めなきゃね。ユーヤは後半開始早々、トラップが大きくなってシュートに行けなかったこともあったよね。もう、ホントに何もかもがもったいないよ。

正直に書くと、このスタメンでこの結果だったことが、かなり堪えました。以前の投稿にも書きましたが、現時点でのベスメンと勝手に自分が思い描いていた前田神とユーヤが先発だったのに、この有様ですからね。エクスキューズをいうなら『市丸とのコンビネーションが、まだ……。』くらいですか。問題は守備。たしかに、千葉の前から来る圧力はあったけど、あんなにパスミスが出るとね。思い切って、大きく蹴ったりしてもいいんじゃないかな?それと、セットプレーの対応。特にCKはマンツーマンにした方がいいんじゃないかな?中途半端なゾーンだったから、ミスマッチが生じて失点しちゃう。前半の4点のうちの2点はそれが原因のように見えました。やはり、現状では早い時間帯での失点は響きます。

総失点はリーグ・ワースト。練習では上手くできているように見えても本番は相手があります。臨機応変、アイデアが勝負の攻撃と違って、守備には型が必要なのではないでしょうか?開幕戦のスタメンと半分以上が入れ替わっている現状。ココをどう整備するか?出来るか?が大きいような気がします。とにかく、ボクらがまだまだ全然諦めていないように、選手達も戦う姿勢は持ち続けているでしょう。長良川では意地を見せてほしい。共に戦いましょう!(ぐん、)

